

2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年 9月 30日
- 事業名 : ボーダレスソーシャルバンク
- 資金分配団体 : 九州地域ソーシャルビジネス・コンソーシアム（公益財団法人九州経済調査協会、一般社団法人ユヌス・ジャパン）
- 実行団体 : 株式会社ボーダレス・ジャパン

① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
ボーダレスアカデミーの卒業生数	ボーダレスアカデミーの卒業生数	累計578名(本科生のみ)→累計300名に変更	2023年3月末	258名	2
ボーダレスアカデミー卒業生ならびにボーダレスアカデミーを受講していない社会起業家が参加するボーダレスソーシャルバンク(コミュニティ)に参加している総数 *社会起業について学び続けたい人のコミュニティ	ボーダレスアカデミー卒業生ならびにボーダレスアカデミーを受講していない社会起業家が参加するボーダレスソーシャルバンク(コミュニティ)に参加している総数 *社会起業について学び続けたい人のコミュニティ	常時300名→常時250名 ※webリニューアル中	2023年3月末	143名	2
行政、地域における民間企業と、ボーダレスソーシャルバンクとの連携が生まれ、地域課題の解決に向けて、行政・民間と協働体制がしかれている状態	連携している企業および行政機関の数	20件	2023年3月末	20件	1

*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目：誕生起業家数 75 名へ、企業/自治体との取り組み数 30 件 <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
オンラインでの開催を主に構えながら、たとえばコミュニティの中で繋がり・熱量を維持するための仕組みとして、「部活動」をスタート。一緒に動く中・勉強する中で熱量が持続する仕組みを作成。またヒアリングを zoom で行う際の工夫も伝えるなど、オンライン下でも実践を進められるようなコンテンツを入れている。 (前回報告時記載内容 ̄)
全てオンライン開催にしているが、孤立感を感じないようにオンラインコミュニティによる密なコミュニケーションをとっている。その結果、同期の繋がり等は深い。

③ 広報 (※任意)

1.メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等)

*京都信用金庫様との連携

- ・ <https://www.kyoto-shinkin.co.jp/business/financing/borderless.html>
- ・ <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUF2754P0X20C21A7000000/>
- ・ <https://ichioshi.kyoto-shinkin.co.jp/area/1895/>

2.広報制作物等

クラウドファンディングサイト for Good 開発

- ・ <https://rescuex.jp/>

3.報告書等

2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	評価報告値検証	常深 孝仁	管理担当者
内部	評価実務実施	半澤 節	事業統括

A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
地域課題・社会課題に取り組みたい方	創業数・起業数	75(累計)	2023 年 3 月	年 3 回プログラムを回しながら、参加者 20 名超の中から実際にクラウドファンディング等を使い動き出す人が増えてきている。(これまで 2,3 割、現状 3~割) 現状 59 名
企業・行政	連携により生まれた取り組み	30	2023 年 3 月	地方自治体や SDGs 等に取り組みたい企業との連携を進めている。具体的には企業・行政向けプログラムの作成。具体的なイメージが掴んでいただきながら実行していく仮説検証が進んでいる。 現状 20 連携



② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
<p><短期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題解決を目指す小規模な起業家を生み出し、彼らをサポートするためのコミュニティができてきていること ・ローカルソーシャルベンチャーが創出され、数年後に安定経営に移っている状態 ・行政、地域における民間企業との連携が生まれ、協力体制が社会実装されている状態 <p><中長期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティかつ相互扶助プラットフォームとして自立自走していること ・様々な地域課題が解決されていること ・他地域におけるローカルソーシャルベンチャー創出のために再現可能な仕組みとして確立されていること 	<p><短期></p> <p>卒業後の経営サポートプログラムや、概念検証を進める際のクラウドファンディングの活用を受けて、サポートコミュニティが成り立ちつつある。</p> <p>21名がクラファン実行</p> <p>20名が経営サポートプログラム参加</p> <p>(卒業生起業家向けに実施している有料の伴走サポート。月1でのメンタリングや勉強会等を実施。)</p> <p>実際に、既に黒字化を果たしている企業がいくつか出てきているなど結果が出ている。</p> <p>企業・行政プログラムの作成をしつつ、提案営業も行っている。関心がある企業はある。ここからどう広げていけるかが鍵。</p>	



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</p> <p>と自己評価する</p>	<p><短期></p> <p>卒業後の経営サポートプログラムや、概念検証を進める際のクラウドファンディングの活用を受けて、サポートコミュニティが成り立ちつつある。</p> <p>21名がクラファン実行</p> <p>20名が経営サポートプログラム参加</p> <p>実際に、既に黒字化を果たしている企業がいくつか出てきているなど結果が出ている。</p> <p>企業・行政プログラムの作成をしつつ、提案営業も行っている。関心がある企業はある。ここからどう広げていけるかが鍵。</p>

B) 事業の改善状況の評価

① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	<ul style="list-style-type: none"> ・アウトプット等の目標値は妥当か 等 ・活動は計画どおりに実施されているか ・活動は計画通りに実施されたか 	<p>アウトプットの目標値は活動内容の変更に伴い要改善</p> <p>活動は計画通りに実施している</p>	<p>アウトカム部分で記載の通り、これまで活動をしてこる中で、金融機関のハードル及び、卒業後に起業前に概念検証をするフェーズを設置する必要性を感じた。</p> <p>そのため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラウドファンディングの仕組みを使った、資金調達と概念検証フェーズを設けて、新たな仮説検証を継続。
実施をとおした活動の改善、知見の共有			<p>知見の共有としては、</p> <p>「いきなりの起業」の前に実際にやってみるフェーズが重要。その設計がないとステップアップが難しい。</p> <p>これは起業前も同様。自分の情熱の根っこを見つけるためにはまず動いてみる。これを今コミュニティの方でも実装している。</p>
組織基盤強化・環境整備			<p>活動が多岐に渡ってきていることも踏まえて、採用活動を強化している。</p> <p>具体的には約半年前から一人運営メンバーとしてのジョイン。もう一人コミュニティ運営者を現在募集中。</p>

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

- ・クラウドファンディングサービスの導入
- ・外部アドバイザーとともに行うプログラム改善
- ・企業/行政へのアプローチ

③ 事前評価時には想定していなかった成果

起業率の上昇。最新の会だと3~4割の方が実際に動き始めている。

企業からの引き合い。社会的事業の作り方等に課題感を持っている企業さんも一定数存在する。

また、コミュニティメンバー同士による相互扶助。協力体制や協業体制等の発足。



④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる<input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある<input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている <p>と自己評価する</p>	<p>ほぼ適切に変更がなされていると感じる。</p> <p>上述した内容をしっかり改善していくことで、企業・行政との取り組みの進みや、卒業生のサポートが手厚くなる。</p>

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

- ・web リニューアルとそれによるコミュニティ動員数の変化をみたい。コミュニティ設計が今後地域起業家を生み出すための肝になるためここに注力する。
- ・併せて、企業・行政との連携をプッシュ型でどこまで広げられるかにトライする。

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）



9期卒業発表会



コミュニティの各部部長会



9期社会起業プログラム中のメンターから受講生への助言会



アカデミー8期生との同窓会